

尾田佳乃子さん 本人のインタビュー



「それぞれの思いは違っていてもこの作品を見ることで温かい気持ちになってもらい、みんなで一つになり笑顔になってほしい」という願いをもって制作に取り組みました。制作過程では不安に思うことも度々ありました。しかし、7階ラウンジで作品を施工している時、子ども医療福祉学科の先生だけではなく、接したことのない先生方や他学科の学生達と会話することができ、「すごい、どうやって作っているの?!」「可愛い!」「完成したら絶対写真とるね」と伝えてくださり、集まった人々達で自然に会話が生まれ、多くの笑顔を見ることができました。自分の作品で感動の大きな輪が生まれることを体験でき、嬉しさと同時に感動し、とてもいい経験になりました。

コロナ禍で人との交流がなかなか難しい中でしたが、卒業研究に取り組む過程で、改めて人の温かさを知り、大学生活の最後にとっても貴重な経験をすることができました。この経験はとても嬉しく、これからも一生涯忘れることのないものだと感じました。

この経験を胸に刻み、一つ一つの素材にしっかりと向き合い表現の可能性を広げていくことで子どもたちだけでなく、多くの方を笑顔にすることのできる保育者になりたいと思っています。後輩の皆さん、高校生の皆さんも子ども医療福祉学科で学び、私の様な感動を味わってくださいね!